

医研第349号

(別紙様式第3号)

論 文 要 旨

論 文 題 目

Ultrasound Biomicroscopic Configurations of the Anterior Ocular Segment in a Population-Based Study: the Kumejima Study

疫学調査における超音波生体顕微鏡による前眼部形状計測

氏名 目取 真 市子








つ	た	。																	
	さ	ら	に	多	変	量	解	析	で	は	遠	視	、	短	眼	軸	、	中	心
前	房	深	度	が	浅	い	ほ	ど	周	辺	前	房	深	度	が	浅	く	、	毛
様	体	が	前	方	に	位	置	し	、	虹	彩	が	厚	い	傾	向	に	あ	っ
た	。	ま	た	、	眼	圧	が	高	い	ほ	ど	周	辺	前	房	深	度	が	浅
か	っ	た	。																
	久	米	島	町	で	の	結	果	を	、	日	本	や	世	界	の	他	地	域
へ	一	般	化	す	る	こ	と	は	難	し	い	が	、	今	回	の	UBM	測	
定	結	果	が	前	眼	部	形	状	を	考	え	る	上	で	疫	学	調	査	の
み	な	ら	ず	臨	床	調	査	で	も	役	立	つ	も	の	に	な	る	と	思
わ	れ	る	。																

(別紙様式第 7 号)

## 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	課程博 * 第 349 号 論文博	氏名	目取真 市子
論文審査委員		審査日	平成 22 年 2 月 18 日
		主査教授	石田 肇 
		副査教授	鈴木 幹男 
		副査教授	上里 博 
( 論 文 題 目 )			
<p>Ultrasound Biomicroscopic Configurations of the Anterior Ocular Segment in a Population-Based Study: the Kumejima Study</p>			
(論文審査結果の要旨)			
<p>上記の論文に関して、研究に至る背景と目的、研究内容、研究成果の意義と学術水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。</p>			
1. 研究の背景と目的			
<p>前房隅角は角膜周辺部と虹彩根部が接触する部位で、隅角の形状解析は緑内障の診断および治療に非常に重要である。超音波生体顕微鏡 (UBM) は前眼部の画像評価法の一つであるが、隅角形状を客観的・定量的に評価することができる。UBM によって計測された隅角形状のパラメータに関して、疫学調査に基づく報告は未だにない。今回、眼科疫学調査久米島スタディ検診対象者を無作為に抽出後、UBM を施行し、そのパラメータの分布および、性別、年齢、身体的生体計測結果との相関の報告を目的としている。</p>			
2. 研究内容			
<p>久米島町スタディ検診対象者 4,632 人から 10%にあたる 461 人を無作為抽出し、</p>			

UBM 対象者とした。受診者は 388 人、受診率は 84.2%で、解析除外症例を除き、解析対象者は 301 人 (61.6%) であった。

今回の研究より、隅角は耳側、鼻側、下方、上方の順に広く、毛様体は鼻側、耳側、下方、上方の順に後方に位置していることが分かった。虹彩の厚みは 4 象限間で差を認めなかった。また、高齢者・女性ほど隅角は狭く、毛様体は前方に位置していた。身体的特徴との相関では、遠視、短眼軸、中心前房深度が浅い程、隅角は狭く毛様体は前方に位置しており、眼圧上昇と狭隅角は有意に相関していた。

### 3. 研究結果の意義と学術水準

本研究は、大規模な疫学調査に基づく、UBM による前眼部形状の解析結果を検討した初めての報告である。前眼部形状は地域差、人種差があることが予想されるので、今回の研究結果を一般化することはできないが、これらのデータが今後の前眼部形状の研究および緑内障の診断・治療方針を考える上で有意義な研究結果になったと思われる。

以上により、本論文は学位授与に十分に値するものであると判断した。

- 備考
- 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
  - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
  - 3 \*印は記入しないこと。